

議事要旨

1 会議名	第3回 吹田市資源リサイクルセンター指定管理者候補者選 定委員会
2 次第	(1) 開会 (2) 答申内容の審議 ア 通常の第三者モニタリングの評価 イ 非公募妥当性確認に係る第三者モニタリングの評価 (3) 閉会
3 開催日時	令和7年12月16日(火) 午後3時～午後4時
4 開催場所	吹田市役所 リエゾンルーム
5 出席委員(50音順)	天野委員、植田委員、原田委員、良永委員
6 公開・非公開の別	非公開
7 非公開の理由	吹田市情報公開条例第7条第3号及び同条第4号に該当する 情報を取り扱うため

8 発言等の要旨	<p>(1) 答申内容の審議</p> <p> ア 通常の第三者モニタリングの評価</p> <p> 事務局 通常のモニタリング評価シートは各委員の評価シートを取りま とめて、最終的に委員会として一つの評価とする。各委員の評価を事務局 にて取りまとめたため、最終評価について御審議いただきたい。</p> <p> 委員 評価項目1-(1)事業運営へのコメントにある「現役世代の一般の 人はなかなか時間が取りづらい」の記載について、現役世代へのアプロ ーチは依然として課題であるため、「現役世代」がキーワードだと考え る。「各種媒体・SNS発信に対して、さらなる工夫をしていく」という コメントのなかに、「現役世代へのアプローチ」という言葉を追加した ほうがいいのではないか。</p>
----------	---

委員 評価項目 1- (2) 経費削減の委託料を市に返還している件について、経費削減に努めたことを「高く評価する」と記載があるが、評価される点もあれば、逆に返還するならば職員の待遇・処遇改善に使うといいのではと個人的に考えているため「高く評価する」とまで言っているのかと考えている。

事務局 唯一 S 評価となった項目のため A 評価とは表現を変えてみようという意味合いで「高く」と記載した。

委員 確かに経費削減は大事であり、その結果を評価することは構わないが、一方で一時金のようなかたちで返還金を処遇改善に充てる等の検討をしてもらいたいと追記したい。

委員 前回委員会で、指定管理者にヒアリングを行った際、余剰金が生じたものの、使途がないため返還したということ saying していた。確かに、経費削減により 200 万円を超える余剰金が生じたことは高く評価すべきことだが、他の使途も検討するよう促してほしい。

返還した点を全面的に評価してしまうと、次回以降も返還することを目的として「返還すれば評価される」との考えになってしまうため、使途を検討するよう文言を追記してはどうか。あるいは、余剰金を設備の改善や処遇改善等の適切な使途について、市と協議することも必要ではないか等の表現を追記できないか。

事務局 「検討して必要に応じて市との協議のうえで」等の表現を追記するよう検討する。

委員 「高く評価します」の表現は必要だと考えるが、今後は返還することだけでなく、別の有効な利用方法についても検討してほしい旨の文言を付け加えてもらいたい。

委員 「現役世代」については、開館日が平日の仕事中の時間帯なので、難しい。

事務局 資源リサイクルセンターは、月曜日が休館のため土日は開館しているが、見学は処理工場稼働している日となるため、土曜日午後と日曜

日が閉まっている。

委員 東京都武蔵野市は、ごみ焼却処分場内に市内の飲食店とともにバーを作ってピットを見学しながら飲食できるようにしたり、夜のリペアカフェに衣類を直す職人来てもらおう等、様々な取組みを行っている。このような取組みをしてほしい訳ではなく、小学校の見学と高齢者へのアプローチばかりでは発展がないため、現役世代に関心を持ってもらわなければならない。現在の取組みと並行して、現役世代にもセンターに関心を持ってもらえるように取組みを検討してほしい。

委員 評価項目 1- (3) 環境配慮に関する評価について、ヒアリングや資料を確認しても工夫が見えてこなかった。リサイクル施設のため、様々取り組んでいることは間違いないと思うが、再資源化だけでなく、水・エネルギーに関する環境配慮行動についてアピールしてほしかった。

委員 言葉の問題になるが、評価項目 2- (2) 利用者サービスについて、「廃棄物の減量から派生した生物多様性や水資源、脱炭素に関する…」と記載されているが、廃棄物の減量から生物多様性や水資源、脱炭素へどう派生するのか、表現としては理解しづらい。

事務局 廃棄物関連施設であるため、さらに広いテーマをとという意図で記載したが、表現を検討する。

委員 「関連した」が相応しいのではないか。

事務局 多くの方が理解しやすいよう表現を検討する。

委員 評価項目 3- (1) 施設の管理運営に係る経営状況について、「運用を物価上昇に比して、利率の低い国債だけに頼るのは、むしろリスクとなっており…」と記載されているが、課題はそれだけではなく、1つに依存しすぎていることも課題ではないか。国債は安定試算ではあるが、適切なポートフォリオを組む必要がある。

事務局 指定管理者は公益財団法人のため、財産を安定的かつ安全な運用に取り組んできたところである。指定管理者としても、今後検討を進めていくと聞いている。

委員 国債だけでは、今の時代難しい。特に公益財団法人はリスク資産ばかり持てないため、国債をベースとして持つことは構わないと考える。

事務局 指定管理者から、専門家を招いて勉強会を実施し、一步前に踏み出そうとしていると伺っている。

委員 それでは、審議した内容を反映させたものを答申の別紙としたいと思う。いろいろ意見があったが、最終的な答申の別紙については、今回審議した結果を基に、事務局と委員長との間で調整させていただいてよろしいか。

<一同異議なし>

イ 非公募妥当性確認に係る第三者モニタリングの評価

非公募妥当性確認に係る第三者モニタリングの評価について、前回委員会から変更のあった点について報告した。

委員 第三者モニタリング評価が、中身は大きく変わらないが、通常と非公募と2つあった。何か無駄に重複しているように受け止めた。

第三者モニタリングが適切にできていないのであれば、非公募妥当性確認が必要かもしれないが、もう少し簡素化してほしい。

特に今回の指定管理者は、市が出資している団体でかつ公益認定を受けている団体であるにも関わらず、非公募妥当性確認が新たに加わると業務が増えるだけではないか。

委員 民間企業を相手に指定管理を公募されて募集する場合に、それが決め打ちの指定管理の選定であれば、指摘を受けて当然だが、今回の指定管理者はケースが違う。

委員 今回、評価項目等が慌ただしく決まった感もある。次回の非公募妥当性評価までに、今回の評価項目が最適であったかを検証することが必要であると考え。今回は初めてだったため、事務局には反省点を踏まえて、次回に備えてほしい。

委員 仮に管理・運営の適格性がないとなった場合には、どうなるのか。

事務局 非公募の妥当性がないとの判断のため、公募をしなければならないと考える。

委員 現指定管理者による管理・運営の適格性がないと判断された場合のことも想定したうえで、非公募審査の実施の有無を考えなければならない。手当たり次第に「指定管理者だから」「非公募だから」管理・運営の適格性を確認しなさいということには疑問を感じる。

事務局 今回の方法が、過渡的となるのか、恒常的に実施するのであれば、委員の意見を、制度を所管している部署にお伝えしていきたい。

委員 事務局から報告があった内容をもとに、現指定管理者による管理・運営の適格性を確認した、との答申をすることについて異議等はないか。
<一同異議なし>

(2) 各委員からのコメント

委員 市が出資する公益財団法人の適格性確認は、疑問に感じたが、結果として財団の適格性を確認することができた。方法等に関して他の委員から指摘があった内容について、次回に繋げてほしい。

委員 非公募妥当性確認を新しく始めて、通常のモニタリング評価とどう違うか、疑問に感じた。次回以降、検討してほしい。

委員 当施設は吹田の誇れる施設だと思うが、市民全員が知っている訳ではないと考える。今回も課題として出てきたが、現役世代の方々の多くに認知されていないと思うので、どのようにPRしていくか。また、日本全体に向けて、吹田の取組みを発信できるといい。

工房も、以前訪ねた時から全く変化がなかった。常設の工房があることは構わないが、どういった工房を作るのか等市民の意見を聞きながら、新しい取組みを採用する必要があると思う。

前回のヒアリングで、実施している取組みを自信に満ちて話していたが、市民がどう考えるかも大事であるため、検討が必要と考える。

ずっと大事にしていきたい施設のため、より良くしていくことが必要だと思う。

9 その他	吹田市審議会等の設置及び運営に関する指針第12項の規定により、議事要旨を公表
-------	--